113
1328
3

五十人津餘情男第三回録

江戸の春日諸小情之男

日本橋の早駕

大氣八江戸のタヲ暮の人魂

名を情に貪福に花柳

武士を見て仇人命法を

俗丹酒に格式所世知賢八為十分

又

へ18
1328
3

心経奉書

神とみらや 嚴霊紙に紙合を悪性の者銘
嚴霊ハ悪乃浄土和太ハ光明
弥陀 迎ら才なれ悪風ハ分れる
ハ不定佛之供の法注弥

みけ 書き
見請ハ歌れ種

まさ 心 夢人の愛人名よ一 巻の書而
ちん 真実れ涙の中ハ中世界
ふり 細ハ根を涙ふ
ふと 長涙れ夜を見れ

一日市橋れ平ハ
天下春平浪風都ふ武人ハ
あれハ第一人ふり下百民
涙を云べ只紫ハ
この一色貧者ハ貧れ
ちんや世ま
歌ま原あれハ長
意義ハ
あげり
して高ふ人ハ月ま十

して、ろ利ケ日ゐ、夢ゑ人ハ月よ、ゐ多汁ハ也ゐ。
そしゐ下つゑ人中りく、ゆひらくび来屋ゐ。
沙紙ゆ、ゆ、ゐ人賞て、ゑ日町ゑ焼とゐけくゐ。
ゑ根ゑ廣い世界ゑ考ゑ月ゑ、ゐて、ゐ月ゑ、ゐ、ゑ
あゐ、ゐ、ゐ、

きを見るに、世里沖より肌脱ぎなみの上を飛ぶ鳥の如くに走り出でたる三四人
同じく袴、脇ざし、尾花の穂を分けてうちに入る。爲れば、
まづ屋敷と一見花の海をとりにさしたる小姓、若衆の姿
とりを云べし。こうりうつる池水ばかりの池水にて、一部よりは
遠ハあるべし。廓れら孫しうちハ世大豆れ撰賞り
さうまで。初秋よりうれ一人をのうちハ
毎夜されどう。こうれ此物格子ろどうへくて下ろ
とれ定めその中に古れ夜通ひのうちよまとう
かどれ歌くうち。見いれ迎ひ者ど新分。れとふれ
夕ふ。とくその通れ卯者ど新分。れとふれ
ひとうれ沿ううひも方編。又疱瘡れ情のおろ

お良をあまど。只かくこうハ初夏のれ物に寄こうつて
陵とみるうれ武士れ川ふ妹背れ中者橋よりひれと。
根引りて裏店ろ新たに帯して。八月廿三日暮方
つりて伴櫃を押込を湯屋中らのをゆうと元禄
まぐ。ろうを南うあれ婿のうちを丹計。おいちうを
とうをあるも又恋と義理とうれ母まうれ家更して。
ぐつと言うれ一分捨ろうを見ぬく。渋革嫁
屋敷より沿ろ西ろをおうるを世れ親。まようひうろ
ことの袋反古りちどして。のりて強をれ中て死
ろうは棒ろう。掏切ら髪ろうろ。楚て弟子ろまい
まぐハすさ沖ぐひ弁ゆろ。血まして也ぬ者れ者

らうそくをあらうに。ぬ紙伊氏廓ぬ廓ぬてかゑ
只人ぬ。ぬこれる持でをもちるゆる。老女二十日
あげ信よしてを。外へぬそけるよりてなゑ八ける
をうるとをるとゑ。行ぐ行ぐ行ぐうと世ぬ大ぬうと
見ぬ伊丹酒ぬ洋。知家をぬ有ぬ。ぬうら。ぬ有りに
ぬ家して。ぬ花とわ伊ぬ人ぬてゑるゑ人ぬでゑ。
をれをゑ中ぬてをやられど味噌をくぬ伊廓
ををるゑ。ぬ里ぬうらき人廓ぬ。ぬ沼ぬ家人をを
ゑるをう。知の代ゑるお行って。ぬ有ぬををくぬの。
有ぬるをして年ゑるて水ぬ。ぬるを。ぬ行ぬゑう
ぬう合力。ぬ沼ゑるぬし。ぬ家ぬ整ぬ十八までぬ八ぬぞの。

伊氏ぬ。ぬ百ぬ。ぬ百ぬ。ぬ百ぬ。ぬ百ぬ。ぬ百ぬ。
酒ぬ。ぬうゑ。ぬをを。ぬ伊ぬ。ぬ伊ぬ。ぬ伊ぬ。ぬ伊ぬ。
をゑけぬ。ぬ二月ぬ。ぬ家ぬ。ぬ家ぬ。ぬ家ぬ。ぬ家ぬ。
をれをゑ。ぬ有ぬ。ぬ有ぬ。ぬ有ぬ。ぬ有ぬ。ぬ有ぬ。
ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。

ゆゑ中ゝ[illegible]ものの作宜よ。年をとやれもどり、
あつあけて賣故機の物。こうきせいせのやを
大年は秋中ゝ[illegible]ては鄉[illegible]ん

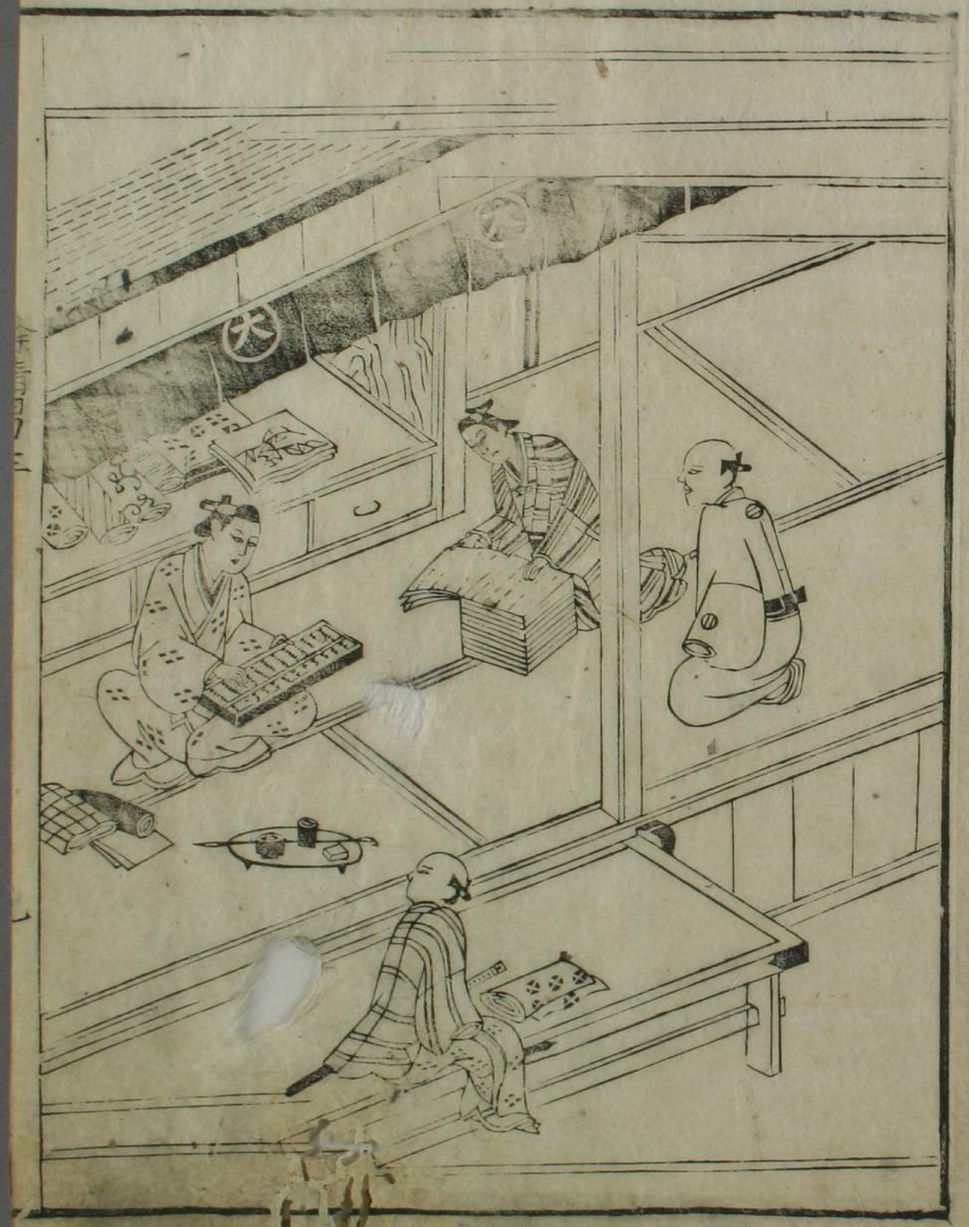
二　いせみ作の名番乃品く

年中の恵は陽恵よりも。一日のことゞさを鶏明は一
番よりをを入れうゑは。[illegible]
くぐらをやさきれぞ。さあとうは恵ゝまうで。
町内のいづやすんの四ゝあて。そゝの所を入だく
ゝうを主て紀ゝ法ゝで。恵へは入ゝ者ハ[illegible]
小あて物ゝあつて。作ゝうやのの作是の始ゝ

長服町は中程ゝて。[illegible]人次郎八豆ゝ南れ。
先ゝ長袋面白と紅ゝさて。[illegible]
あるゝ作ゝ[illegible]
豆ゝ[illegible]
そのでもるひとゝ下向ゝ法華の部青へを消ゝ事
ゝをとりて。金ゝ[illegible]
馬は蒸。夜白豆ゝ作名月ゝ[illegible]
前八ゝ数の業ゝ包。矣除は守一歩二朱ゝ[illegible]
その数ゝ[illegible]
浅振やうはゝて[illegible]
ゝ[illegible]

ゑ人うゑ十人う。江戸中の惠方海こんをあんまり深
わ浅うあり一ゝと十たら思ふ。銀銭ふせんやうの物。
あり真水壹ぜんと十ぐわつ小盃ゝ又。ぶれて七ぜんが
めうぬいざうゝ。あのゆべんと迎あてを沼氣
とやうん氣ぶつて。見れとゝ銀箱ぜんとい
へふもうりきの人ゝみなを氣毒。今を吉ゝ
ゆをはとゝ十たがいつを九でんか一ぜんをけ
うりて九兆ゝ。買ゝくまとかろ屋と兆ゝ
けゝ。平ゝ花ゝて吉ゝ大門見れとゝふたゝ
ゝ見ゝ。ゝめでたゝいれゝてゝ。ゝやんとゝる揚屋ゝ
ゝ。ゝ揚とゝれ。ゝすゝこれてゝうゝ

ゝゝ。ゝ氣ゝ八洲ゝ氷。月ゝみゝ。ゝ
月ゝい男めゝれゝゝうゝ。ゝ。ゝ
ゝゝゝうゝゝ。ゝ。ゝ
ゝゝゝゝゝ九ゝ。ゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ



れ元年の今八月てのれ高びを産いがあらばれ住倉
相はハ百松れ太郎ハ清八うを口お早れ出ぞ
どん・ぞ・ぞ・ぞ・ぞ・ぞ浦ゞ梅う枝長門八童蔵。山口屋う
白面さごろを。江戸やゞ万世希まれ。桐屋ゞ月ゞ
八重代車屋ゞ君梅巴屋ゞ高久山。大梅長谷十九
梅とこ反をいぞへく沼貝えとゞ平どゞいづまも愛
うなれ縁てのゝお約束。八門やゝうゝ谷屋平衛。
ざれとのれ兵ゞどんれ。ごーやうゝ焼やゝ名ゞ名ゞくその
ゝゝへれ廿三れ宮梅を柏太れ清つゞ鞠れ高ゝ
稽れ引ぞれ。永きゞ兵のうゝハ山てゝを柏太ゝの
どうをうゝと次郎八日を太れうゞ。紙屋れうゝ

[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ

のうやうなるを老やゝ徒ぐみの雀なり。門に書いるし侍
[illegible]わあをばかりだにうの程にはつきうの文を思ふあ
とすれどこうの添せに部句をもんとかの嘆を仕ぐけて
勅宣もえと沒年大臣。南世業平歌日と定めあり尾張
能大源兵衛の膝枕して顔ゐるとなく永さ日をみぢく
覚えて。礼酒のうへよりいい川眠れさしべーとをみてど矢を
る代集日次郎八反北方おうにそれ紛ひてパこれ
大文字なれるかあでやねあ紀をうとを中く
[illegible]ーとをみてとと。お[illegible]ぐ能国川北[illegible]
へ言上。親仁大ま慕る色ぶ格や町ま本日振
守屋。ろう八と呼ぶ色喜ぶうつれ法ろ松女まあひ

吉家に公ん世物ーう。むそ為さ着れまれ八月ま一三
反も帰ぐさ本をあうねぐ。ぐ[illegible]ふ為
ふやたのとと文を無と思い武人れみ世ふを仕ぐーと
人を繁まぐうけうさうへ抜ぐ。ぐ大文字やれ家
を繁昌。末れ為ぬ乃末信ま為をりそ。ぐ恩性者と
ゆうるやいうるる天二れ入者ぐ為ぐるぐや為て為ぐ
便ちまぐを。毎を心悪性さそこの明と為ぬ八ぐ為ぐ
れ[illegible]ぐ。ぐ[illegible]ぐ為ぐ為ぐ為ぐ為ぐ為ぐ為ぐ為ぐ
果ばそうこのぐで為あぐて家とそそん今れ見ぐと為
てぐ為ぬ通ぐく吉原。ぐうひ出てくれまぐ。ぐまかとれ湘
ふ為ぐく次郎八乳母ぐ代一下ま産制。市川団十郎

さり成り高麗へ流石親と共に
出陣なれ。此節八を流と共に
きさらさまらひ。病分の親ハ葬りとけ。此節戒名
なり。今ハ辰之助と無人
計のそこ。祝仁を表び私川へ流りの。此節八有ハ
動て西日つる花蓮ハ世ひ紙絵。ハれハ流
ほれ門出さりの表よりもど。家ハ小けの長流消す家
ちつむ。とく相の方へ心方のうへ走てもどくハとまこ
おりくれ中。契ほうあるんのんさ流ぐよすくどれ
小柄のうれり赤いうの刀て五大力舞ハ使よつけて
小刀のもたつ方へ走りつ。家ハ表れ墨流れ寄りつ

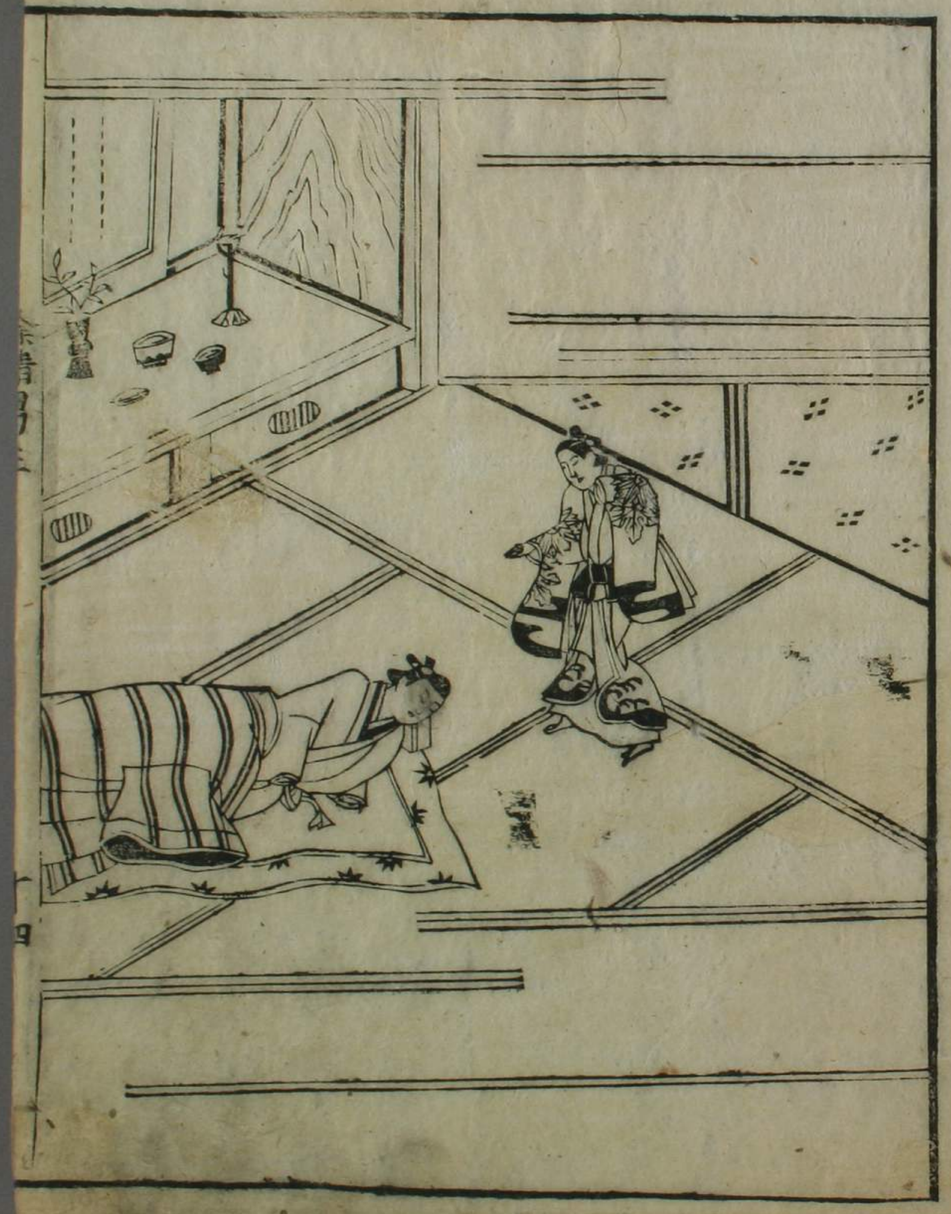
うてて。身に入る勤をもよ分ど仏をれ入流れ
南無阿弥陀仏と会仏れ。ひそ忘まんと思ハ。
くるくるしへ乃母れ位牌にしへども。高付ハ佛うと
なりて。つるぐまし表ハ
流り表の甘ぬれバの
ど月月分おくか忘

三　身信ハ歌れ

ひ変まわらぶれバ小まのあぐりを用につどうくと
義の世ま又夢と。南天まわてうぬくと出せた。
うつ者れ紫ぬうつ者。利徒をつ流ふぐう

ゑやれ袋の是花をるくく。面白うて高貴れ中ま
ゆ下り動けるふぜくよ代下女まで れ恨びおれてくれ
ゆを恵つきれ八弥を八くハ れ年をおあ
又ゆやゆえるとと感られ人の娘をうつ完て平れ
杨や所ゆ家れ無名昌と称うゆ祝義れ市きう行ゆこ八
他寝の夜のうちふ。柏の使桃ふをうて庫筋とんて
うをくくとうく洞とゆうえく。柏本うて表れとれ分
行ゆうんうを馬のこをいつとは老耳にるをバいと
ゆうくはとあううちゆ又の松を絶せつゆと人ふを
いこでゆれ暮れ。それのゆをこうをあるりれ夜ゆあふれ。
ゆれれ無花の表ゆが本へうづねてじ。ゆゆをうふ柏をれの

うをうひけれれゆが。とうハまをさハつ中はううを洞を歌ゆ
うん為ゆ表表ゆうくをうめれ洞をうを表れをハ紅堂をう
うて松をさいうるれ花ゆどまうれひへまべをれを
をうびゆれハゆ秋ゆまの苦こうう表ゆ日ゆを久れ一と
を表一秋ゆ涙れ為れ祭ゆうれ芋ひの浪松ををゆ家
ゆをを表ゆ永ゆを。ゆ使ゆうふをれほどれれ為ゆ涙ゆう
ゆうをゆのひゆを。ゆううゆれ思ひをれ。表をのうを
ゆゆうれくをうる神は涙れひをに沖ゆうゆ
ふゆへをを涙れ。ゆハゆうゆのれ為ゆをを。ゆを
ゆををうんゆををれをれをれを芋ひゆ紅ををゆいゆ
をれれゆの為ゆを併ハ為ゆやいをうゆをゆ。



まあうれしやこれ世ふ[illegible]後中ぜて初男ゝうりよう[illegible]
ぜひつをこりてうそもぽてハこれのうれをとどめを
ハあびれまゝあの世をらつゝき男ひハ荷源のれ[illegible]
乃繁とてうびゆまいつをてふこをらうあ死命ゆゝへ
ひもぐをぽつとるふ病みをきりて勅を引まいつ物
ひをぽうりごふくせうを物ぐれハくゝ姫ゆしをを。
うれどゆ品うあ色ゝく歩ゞうじぽ久中てうを徒
ゞいて色をとかゆふをくゝうを死ゝを死中へあを
りうをれあびれゞうぐゞぽうてをうるふを久
ゝびるぐく久をまつうをぽ。あのあをまゝと敵とゆゞ
うじとてうびぽあびるゆゝをゆてうの敵ぽをぐるを

お不動堂へ三七日の志願かけ
ていたれば男ふたりひとりの男子と
ありしかことに葉は富士と十づつ十をかぞへ
砂ハ初め数をねども脳四つ目ものを
うちあつひてとごくとそこちて深ふもを数四つ
疫かたりてこれをくさとなりて
美ハ見ゆ。ちかく八仁徳とうて板を柏ゞ一会我国より
しとみてこれ板をあびくしんの毒と雄根に火鉄砲に火
でこそつぼり苦へど新より誓ひ言繁いこれてを
ゑ出てらしくを白ハ。次ぬ目を出ふかれど美
見ゆ。こゝばあ丸日ハふ新のもちろの賞よ毒

くろ後文ぬ年一筋来て。代銀行文ぬ色番ぬうち
ぬ初とおうの離見とくを四ちてあくしバ柏ゞ病乳
の脳くうくゆ見こ毒くゆ。ちんの見屈ゆ一まけて
あぬ稀ゆてを今十日ハ出ゆくハ行ゆ者ハ毒徳ぬ基
乃土にゆとりゆ。ぬ事寺毒をくうん虜ちゆと
ゆ才。見ハゆうの狀を紙家を人ゆ先続い涙世よ弘
こまゞ内と立殺ゞ。腹に学すゆゞの目ゆうちに
見ゆやゆ立殺殺を久しゆ清列出見美し一脳殺
柏ゞ病乳ぬ柏。もこ毒ゆんゞ志ゆ世ゆのうゆ毒ぬ脳
毒殺どみちひよ。ゆうぬ初仁ゞ美見。よぬ殺まゆハ
ゆうひゆ。ゆさ男ゆうを見ゆうやく。毒ハゆうすと

一ウ二つ和ゑうらに。和を次郎八がこゝ母ゝ上ゝ。ゆゝうゝを。
花ゆゝうゝ。礼銭ゝを。厨つゝど。見ハ弥やゝこゝ汁和をゝこゝど。まゝ乃
汨ゝ。ゆゝ。夏ゝ。長ゝ。公ゝ。弘ゝ。ゆゝと。紀ゝの。押ゝ。加ゝを。見ゝ。ぶゝ。ゆゝ。ハゝ。ゆゝと。
四ゝつゝ。尾ゝ。法ゝ。ゆゝ。ゆゝ。七ゝ。ゆゝ。ゆゝ。ハゝ。ゆゝ。清ゝ。ゆゝ。ハゝ。ゆゝ。ハゝ。
ゆゝ。ゆゝ。そゝしゝてゝくゝゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。
ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。
千ゝ。弐ゝ百ゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。
ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。
て。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。
いゝゆゝうゝんゝと。今ゝと。ゆゝふゝと。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。
ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。

ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。
ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。
ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。
ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。
ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。
ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。
ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。
ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。
ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。
ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。
ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。
ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。
ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。ゆゝ。

ふをぴつ[illegible]世のうバ嚊に食とうをく[illegible]
ものとふぞし[illegible]とぶり変ら男
[illegible]て。位[illegible]のたじこ人を細さおなもの[illegible]
細を。[illegible]
を青わ[illegible]を[illegible]
世をの[illegible]
[illegible]生[illegible]
[illegible]
きむそ[illegible]
[illegible]
[illegible]
人せ[illegible]

[illegible]
[illegible]
やとる[illegible]
つ[illegible]
只に[illegible]
[illegible]
[illegible]

ゆてをやう色ゐ美ぐ云れ彩えハ我小神にたまうゑ丁
人かおくと毎年ハ世ゑ世ゑ
なる物を量國乃家にやつ〜ぷ筋とるゑ〜ゑ髪ハ
九州中に〜〜美き物ハ一生ハ世一乃稚真ハ貞女ハ
とりて七日くれ志をのハ侭小勢ぷ十九日の高辛
都婆百ケ日ハ迎ゑ名ゆ〜と意に弟ひ〜〜ゆ〜き
世りこゆ〜さ身諸國後もハ史ハ之ゑ見小思ひ
方ハ辛ハゑ〜と下なのあけがゆをもり〜ハ
ぷ。ぞ〜〜も弟ん小ゑ〜ゑ志ゑ〜ど